

ケアマネ通信おびひろ

第53号（号外）

第10回介護支援専門員協会全国大会・北海道

帯広市ケアマネ連協として参加された会員の皆様から報告です。

前沢先生の「ぐるぐる図」に衝撃

指定居宅介護支援事業所 向日葵 福田 美雪

この度は、全国大会に参加させて頂きありがとうございました。地元での開催時に参加の機会を頂き大変うれしく思います。

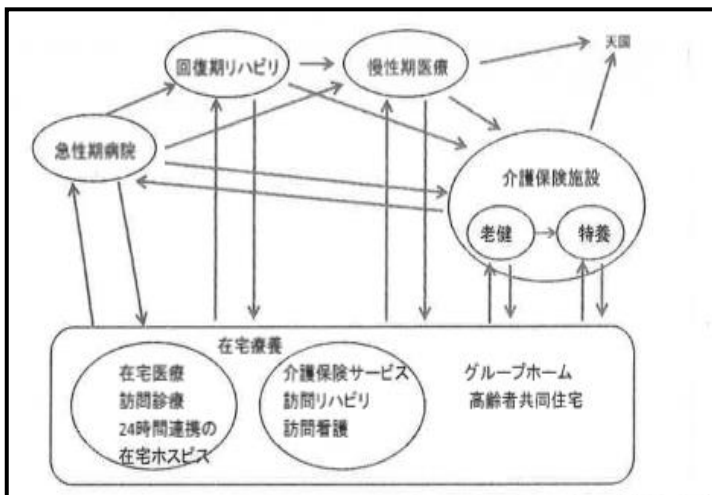
大会1日目のシンポジウムでは、それぞれのシンポジストの意見を伺うことができました。中でも医師である前沢先生の『在宅療養、入・退・転院、入・退院の動向 ぐるぐる図』は、ある意味、衝撃を覚えました。

介護保険や医療保険の改正に伴い、自宅には帰ることができないのに、期間がきたからと退院・退所を迫られ、途方

にくれる、利用者様・ご家族様がいかに『たらいまわし』と感じないよう、ケアマネジャーの役割が重要であると聞きました。しかし現実には、下の図のように利用者中心ではなく、制度や箱物だけが先回りした、地域包括ケアシステムになっているのでは・・・

日常の仕事に矛盾を感じることもありますが、どのような場所でも利用者様が気持ちよく、元気に過ごせるよう、研鑽していきます。

2日目の分科会では全国のケアマネジャーからの研究事例報告があり、どの事例も興味深いものでした。自分の地域にない資源は作り出せばよい、ケアプランを立てる前に自分に何ができるだろう……。他の職種の方との効果的な連携方法をとるには、などととても参考にしました。『忙しい・・・それは他の人の仕事』と毎日追われる様な日々の中、言い訳ばかりで前身できていなかった



ことを反省した日でした。

これからも前向きな気持ちで業務にあたります。ありがとうございました。

制度に振り回されずニーズの変化に敏感に

地域包括支援センター帯広市社会福祉協議会 古山 沙代子

初めて全国大会に参加しました。ケアマネジメントについてのシンポジウムでは様々な職種の方から話を聞くことが出来、ケアマネに大切なことはコミュニケーション力とシンポジストみんなが言っていて、特に前沢氏は、コミュニケーションは言葉だけではなく「音と雰囲気」と話がありとても難しいけれど大切なことで私自身もっと磨いていきたいと思いました。

社会のニーズの変化で制度が変わるので、制度に振り回されずニーズの変化を敏感に感じとってとも話があり印象に残っています。他にも、難病についての支援の話があり知らないことばかりでとても勉強になりました。

分科会では、私は主に終末期医療の分科会を選び聞きましたが、あまり経験したことのない事例ばかりで興味深く聞かせていただきました。

夕張市長の講演も面白くあっという間の2日間でした。参加させていただきありがとうございました。

自分の目指すケアマネの道標となる講演

初めて参加した大きな大会(研修)でしたが、層々たる各職種の代表の方々のシンポジウムを聴き、エネルギーが心に染み渡る思いがして自分の目指すケアマネの道標となる講演で、長い年月その道でスペシャリストとして活躍されている方々の話を聴けた事を幸福に感じました。

高齢者の方々個々を支える事が地域を支え、高齢者社会を支える事となり、多職種との連携を取りケアマネ一人一人がスキルアップすべく知識を持ち視野を広げ、広範囲に渡り知識を付けて行かなければならないと感じ、分科会の事例検討も時間や労力をかけての研究・統計など全国のケアマネ皆さんの前向きな取り組みは素晴らしく、皆さんの仕事に対する情熱を感じました。

出来れば全ての分科会の話を聞きたかったと残念に思います。

とても勉強になり私も「Be Ambitious！」 大変良い経験が出来ました。来年もぜひ参加したいと思います。

居宅介護支援事業所大地のはな 山谷 靖子



前向きに今後の仕事に取り組みそう

2日間に渡る全国大会でしたが、あっという間の時間でした。

私ごとですが・・・6月から『居宅はるか』から『包括支援センター』へと異動となり、勉強不足・知識のなさ・環境変化への弱さを痛感している中で、前向きになれるきっかけの一つになるのではと思い、思い切って参加させていただきました。

夕張市の現状は日本の縮図であると、市政に取り組みされている若き市長の講演。分科会では5年以内には住民が0人になってしまうであろう限界集落へのアプローチ。全国各地で奮闘しているケアマネジャーの取り組みは非常に内容が濃くもっと聞きたかったというのが正直な感想です。勉強になりました、前向きに今後の仕事に取り組みそうです。ありがとうございました。

地域包括支援センター帯広けいせい苑 臼井 順子

安心して暮らせる地域づくりを皆様と共に進めるべく、気持ちを新たに

介護老人保健施設あかしや 佐藤光久

このたび、平成28年10月15日(土)、16日(日)両日に札幌市で開催されました、全国大会に派遣・参加させて頂きました。初めての介護支援専門員協会の全国大会でしたが、care managers, be ambitious! ～自立支援と公正中立のエビデンス～のテーマのもと、多くの基調講演・演題発表があり、全国各地から多数のケアマネ・関係者の参加がありました。

中でも強く印象に残っているのがケアマネジメントの在り方の再認識とその視点の重要性、ケアマネに求められているスキルでした。私は一般演題の中でも医療と介護の連携(第一分科会)、ケアマネジメントの質の向上(第6分科会)を中心に聴講させて頂きましたが、連携という名において医師及び医療関係者のみならず担当者(医療:MSW、施設:相談員、CM、在宅:CM)が転々となり、患者としては将来の生活に対する不安が増大したり、アセスメント及び視点の差異によっては方向性も変わってしまうとの指摘もあり(グルグル図)、介護支援専門員に求められる視点とスキルの多様化を感じ、施設ケアマネとしても身が引き締まる思いでした。一方ではケアマネジメントの質について、基本的な事と認識はしているものの、目標設定(表現)の曖昧さ、適切な期間設定やモニタリングについて等多くの課題を分析・指摘されている発表もありました。

自身は老健施設のケアマネではありますが、あらためてケアマネジメントの基本に忠実に、利用者本位の自立支援を心掛け、且つ他職種連携・地域連携の視点と実践をしていきたいと再認識し、地元帯広・十勝で安心して暮らせる地域づくりを皆様と共に進めるべく、気持ちを新たに帰路に付きました。大変貴重な機会を頂きまして本当にありがとうございました。

災害時に私たち専門職ができることを強く考えさせられた

地域包括支援センター愛仁園 小野貴史

このたび「第10回日本介護支援専門員協会全国大会 in 北海道」へ参加させて頂きありがとうございました。今回の講演の中でポイントとなっていたのが地域包括ケアシステムの構築であり、それに向けての制度変革の中で私たち介護支援専門員の役割として、利用者さんが住み慣れた地域で暮らし続けるように支援するというのを改めて感じました。

講演の中で熊本の震災時の支援内容を聴く機会がありました。今年、北海道でも台風災害で帯広やその近郊で甚大な被害が出ています。被害の内容は違いますが、私たち専門職として出来ることを強く考えさせられました。また地域ネットワークの重要性など含め災害時の支援を通して地域包括ケアシステムを作りながら私たちのネットワークも構築する必要があると感じました。

ケアマネジメントの本質を示す言葉に感銘

地域包括支援センター帯広けいせい苑
介護支援専門員 西田文美子

平成28年10月15日～10月16日、札幌にて全国大会 in 北海道～介護支援専門員よ大志を抱け～に参加させて頂きました。

晴天の秋空の下、会場に到着。活気のある札幌会場と次回開催の石川県の協会の皆様の笑顔でのアピールに意気高揚して前目の席を確保。

1日目は厚労省の佐藤美雄講師の基調講演に始まり、「自立支援と公正中立のエビデンス」をテーマにシンポジウムがありました。中でも心に残ったのはシンポジストの前沢政次氏のお話で、ケアマネジメントの本質～クライアントのストレングスに敬意を払い、目標を創り維持する。クライアントの日常生活から学び、人生の意義・目的を再発見し価値のある人生を歩んでもらうことを目指す～との言葉に感銘を受けるとともに、介護支援専門員として使命感を持ちかつ紳士的な態度でクライアントに向かい合いたい！と私なりに「大志」を抱きました。

2日目は分科会形式で、私は「地域包括ケアシステム及び他職種連携2」をテーマにした第5分科会に参加させて頂きました。札幌市北区第2地域包括支援センターの発表では、サロン等住民の集いの場のマップを作成して住民が活用できるようにする活動をしていて、とても業務の参考になりました。又、「過疎化の進む地域で住民と一体となって地域力を高める」と題して発表された京都府の居宅支援介護事業所博寿苑の発表では、サービスなし・アクセス悪し・住民からのサービスの求めなしの限界集落で明らかに支援が必要と思われる地域の住民が安心して生活を維持するために支援できる体制を構築する過程を聞きました。帯広市内の農村地区を担当する地域包括支援センターとしてサービスの選択が限定された中でのアプローチの仕方は参考にさせて頂きたいと感じました。

全日程とても充実した内容で、この度の貴重な経験をさせて頂いたことに感謝を申し上げます。

自立支援は他人が強要するものではない

この度は、帯広市ケアマネ連協の代表として参加させて頂き誠にありがとうございました。10月15日～16日札幌で開催された日本介護支援専門員協会全国大会に参加させて頂きました。全国からおおよそ760名が大会に参加し、2日間かけてシンポジウムや分科会、介護用品の展示会などが行われました。

1日目は基調講演後、シンポジウム「careManegere, be ambitious! 自立支援と公正中立のエビデンス」と題して4名のシンポジストの方による講談がありました。

難病支援ネット北海道代表 伊藤たてお様の講演では難病の医療提供体制の在り方について「自立支援は他人が強要するものではない」と語られており、自分が日々アセスメントをする時、利用者に真摯に向き合い話を傾聴しているのだろうかという疑問を感じ、自己を振り返る場となりました。

2日目の6テーマに分かれて分科会が開催されました。私は「医療と介護の連携・ターミナル期支援」「認知症の人への支援」に参加させて頂き、地域を絡めた認知症に対する取り組みや、ターミナルの取り組み等、沢山の事例を聞かせて頂きました。

2日間を通じての大変良い刺激を受けることができ「ケアマネジャーになりたい」と強く思った志、初心を忘れず行動しようと心に誓い帯広に戻ってきました。少しでも利用者様に還元できるよう、日々の業務にあたりたいと思います。

指定居宅介護支援事業所 向日葵
山本 佳子